

## 第 16 回 ロンドン大学 SOAS 大学院進学準備コース(FDPS)

皆さま、こんにちは。

ロンドン大学、SOAS(School of Oriental and African Studies)の FDPS に所属しております、小林亜希と矢崎園子と申します。今回は二人での共同執筆とさせていただきますことになりました。入学してから早半年以上、かつ先週ご紹介のあった IDDP のスタッフとして共に働いている二人ですので、息のぴったり合ったところを見せてゆきたいと思います。

### コースの趣旨(誰向きのコースなの?)

FDPS コースは、正式名称:Foundation Diploma for Postgraduate Studies と言い、日本語では大学院進学準備コースと訳されています。大学院留学を考えた時に、英語に不安を感じたり、社会人として働いていて、学生生活からだいぶ離れていたたり、また、大学での専攻と大学院での専門を変えたいと望んでいる方向けのコースです。このコースは、留学生がイギリスの大学教育に慣れること、日常英語ではなく、専門英語を読み書きできるようになること、物事を批判的に捉えることができるようになること(イギリス教育において大変重要)を目的としています。今年度は、中国人が 4.5 割、日本人が 3.5 割、その他 2 割ぐらいの割合(韓国・タイ・パキスタンなど)で構成されています。学生の年齢は様々で、21 歳ぐらいから 35 歳ぐらいまでの人が学んでいます。このコースの学生のバックグラウンドは、看護学、農学、経済学、文学部を卒業して渡英した人、弁護士、銀行員、公務員だった人など多様です。

### FDPS のコース内容

FDPS ではまず Optional Units の 6 つの中から 2 つ、自分の将来の専攻にあった科目を選択します。その 6 つとは、

- 1 . Studies in European Society
- 2 . Issues in International Development Studies
- 3 . Comparative Studies in Culture
- 4 . Introduction to International Relations
- 5 . International Business Studies
- 6 . Studies in Media and Communications

です。例えば、開発への関心は共通だったとしても、国際関係に興味のある矢崎は 2・4 番、文化方面に視点を置いている小林は 2・3 番といった科目の取り方をしています。

それぞれの科目に対して、Subject teacher によるレクチャーとセミナー、English teacher によるリーディングの授業とレクチャーレビューの授業があります。この English teacher の存在が普通の MA との大きな違いです。彼らによってレクチャーについていけなかった所を補うことができるのが強みです。

この他に、Research Methods という論文の書き方を指導する授業と IELTS 対策の授業があり、ここで英語力を高めることができます。全部を換算すると、週に 19 時間になり、時間的な拘束は MA よりも大きいと言えるのではないのでしょうか。

## FDPS の評価

評価は主に、学期ごとに各科目に対して課される 2000 語の assignment (2 科目 × 3 ターム = 6) と 8000 語の dissertation (4 月末提出) と年度末の exam の合計で出されます。その他に授業態度や出席日数なども加算されるようです。

## コースの強み

このコースは、大学院進学をサポートすることが目的なので、願書の書き方をアドバイスしてくれたり、推薦状を書いてくれるなどの利点があります。また、日常会話は英語ですし、学校の授業もすべて英語の為、リスニング、スピーキング、ライティングのすべてのスキルが上達します。学生の国籍は多種多様ですが、みな国を超えて仲が良く、和気藹々としています。さらに、FDPS はマスター用の寮に住めるため、SOAS の MA の生情報をフラットメイトから聞けるのも特筆すべき点かもしれません。

## FDPS の弱み

FDPS のわるいところをあげるとすれば、まず先生の当たり外れがあることがあげられます。Subject teacher の質はよいのですが、問題は English teacher や IELTS 担当者です。これらの教師は無造作にふりわけられるので、運の良し悪しがあると言わざるをえません。

また今年にはストライキの影響もあった上、教師の病欠などもあって、よく授業がキャンセルされていました。深刻な病気などはしょうがないのかもしれませんが、その場合の教師の交代もスムーズにいかず、生徒はかなり振り回されました。

加えて、コースに日本人が多いのも環境としては望ましくないと言えます。自分自身が強い意志を持って、他の母国語集団と行動をともにするようにしないと、授業以外は日本語という例もありえるのが現状ですが、これは自分自身で解決できることでもあると思います。

## 最後に - 開発の入り口としての FDPS

開発学は日本ではまだまだメジャーとはいえない学問です。矢崎は農学部、小林は文学部東洋史学科を卒業し、実際に開発の現場で働いた経験はありません。そのような私たちにとって「開発」という学問への入り口として FDPS はよい場だと思います。実際の授業はもちろん、SOAS にはアジア・アフリカ研究所という名からも想像できるように開発になんらかの形で関わる勉強をしている学生が多いこと、多様な国からの留学生があふれていること、ロンドンという人と情報が集まる場に位置することなどが要因となり、多くのことを学んでいます。皆さまの周りで、これから開発という世界に取り組んでみたい、という人がおりましたら、ぜひ選択肢のひとつとして FDPS を紹介していただければと思います。私達自身も FDPS をステップに「開発」との関わりをさらに深めていきたいと思っております。

2004 年 4 月 20 日

ロンドン大学 SOAS(School of Oriental and African Studies)

大学院進学準備コース(FDPS)

小林亜希・矢崎園子